

国語科に関する 現状・課題と検討事項



1. 現行学習指導要領における改善事項

- 国語科では、全ての学校段階を通じて、
 - 国語の特質を理解し適切に使えるようにすること
 - 伝え合う力を高め思考力や想像力を養うこと
 - 国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養うことを共通目標として整理している。（※参考資料8）
- 前回改訂では、情報化やグローバル化の進展など現代的な諸課題を踏まえ、言語活動の充実を通じて思考力、判断力、表現力等の育成を一層重視する観点から、
 - 相手や目的、場面に応じて、考えを分かりやすく伝える力
 - 他者と協働して考えを深める力
 - 文章を読んで自分の考えをもつ力
 - 情報を的確に捉え批判的に吟味する力
 - 言語文化を継承・発展させる態度などを育むための見直しを行った。（※参考資料9）
- また、全学校段階を通じて「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の各領域における系統的指導を進め、学習過程を明確にすることで資質・能力の確実な育成を図った。
特に高等学校では、こうした資質・能力の育成を一層確かなものとするため、
 - 共通必修科目：「現代の国語」「言語文化」
 - 選択科目：「論理国語」「文学国語」「国語表現」「古典探究」を設置するなど、科目構成の見直しを行った。（※参考資料10,11）

2. これまでの成果等

- これらの改善の成果として、
 - 話や文章に含まれる情報を理解し、自分の考えを表現する学習活動の充実
 - 伝統的な言語文化に親しむ学習の重視
 - 課題解決的な学習活動の充実
 - 高等学校における各領域の指導改善等が図られてきた。
- こうした中、各種調査では下記のような結果（参考資料1、2）
 - PISA調査では、日本の15歳の生徒（義務教育修了段階）の読解力は概ねOECD平均水準を上回っている
 - 一方、同調査の記述問題では「根拠を示して自分の考えを説明すること」に課題（R7全国学調でも同様の課題）
 - 令和6年度全国学力・学習状況調査経年分析調査では、小6及び中3の国語のスコアが低下
- 生成AIやSNSなどの普及による情報・メディア環境の変化も見据え、今後は、生きて働く「知識・技能」の定着に加えて、言葉を手がかりに自分の考えを深め、他者と協働してよりよい社会や文化を創造していくための資質・能力の育成が一層重要となる。



3. 学習内容に関する課題

(1) 言葉で思考を整理したり深めたりすることに課題

- 短文でのやりとりが中心となるSNSなどに日常的に接する中で、まとまりのある思考を深めたり、表現を工夫したりする経験が不足しているとの指摘（※参考資料3）
- こうした中、自分の思いや考えに適した言葉を用いて表現すること、話や文章の内容と既有知識等を結び付けて整理し考えること、自分の考えを深める読書習慣の定着などに課題（※参考資料7）
- また、これらの基盤となる語彙指導（漢字を含む）について、一律の指導から脱し、個々の習得状況や認知特性に配慮した具体的な支援や指導を充実させる必要

(2) 目的や場面に応じたコミュニケーションに課題

- 目的や場面に応じて、
 - ・ 話したり聞いたりして考えを整理すること
 - ・ 思いや考えが相手に伝わるように話や文章を構成して表現すること
 - ・ 対話による合意形成や相互理解を図ることなどに課題（※参考資料4）

(3) 目的に応じた文章理解、情報の評価・熟考に課題

- 目的に応じて文章を読み、自分の考えをもつこと、多様な情報や意見の妥当性・信頼性を確かめること、などに課題。全体として、情報社会で必要とされる「文章を読む力」や「情報を評価・熟考する力」が十分に身に付いていない。（※参考資料5）

(4) 我が国の言語文化を継承・発展させる態度の形成に課題

- 我が国の文化としての言語の価値を理解し、言語文化を継承・発展させていく担い手としての自覚をもつことに課題があるとの指摘（※参考資料6）

4. 指導のあり方、指導体制・環境面に関する課題

- 国語科で育成すべき「読む力」と、各教科で必要とされる「教科書等を読み解く力」の役割分担が十分に整理されていないことにより、各教科における「教科書等を読み解く力」の育成が不十分になっているとの指摘
- GIGAスクール構想によりデジタル学習基盤が整備されたが、複数の情報を基にした思考、動画・図表の活用、文字入力など、多様なデジタルツールを生かした指導は、なお試行錯誤が続いている。また、情報過多の時代にあっては、情報を整理し、自分の考えを形成する指導の重要性が一層高まっているとの指摘
- 柔軟な教育課程編成を促進する方向性を踏まえ、学校の創意工夫ある実践を促す観点から、指導内容等の示し方を検討することが必要
- 小中学校での学びを発展させ、高等学校へと接続し、大学や社会での実践的な活用につなげていく観点から、高等学校における科目のあり方を再検討することが必要



ワーキンググループにおける検討事項・論点①

1. 教育課程企画特別部会の議論を踏まえた検討事項

(1) 国語科を通じて育成する資質・能力のあり方・示し方

- 「学びに向かう力・人間性等」や「見方・考え方」の新しい整理を踏まえた目標の見直し
- 中核的な概念等に基づく内容の一層の構造化や、その過程における必要に応じた精選
- 国語科の特質を踏まえた、表形式を活用した目標・内容の分かりやすい表現への見直し

(2) 国語科の指導と評価の改善・充実のあり方

- デジタル学習基盤の活用や情報活用能力の育成強化を前提とした、国語科における「主体的・対話的で深い学び」の一層の充実を図るための方策の具体化
- 資質・能力の育成にあたって、効果的かつ過度な負担が生じにくい国語科の評価への見直し

(3) 誰一人取り残さず資質・能力を育成する柔軟な教育課程のあり方

- 義務教育における調整授業時数制度や、高等学校における科目の柔軟な組み替えを可能とする仕組みを前提とした場合に考えられる教育課程・学習指導の工夫や、教育課程の柔軟化に伴って生じる課題を見越したうえでの運用方策

(4) 学習の基盤となる資質・能力（言語能力、情報活用能力）のあり方

- 国語科の特質を踏まえた言語能力、情報活用能力向上のあり方と教科等横断的に読む力を育成するカリキュラム・マネジメントにおける国語科の役割の検討（総則・評価部会との連携）

2. 国語科に関する課題を踏まえた固有の検討事項

(1) 小中高等学校の系統性の整理に関する検討の方向性

● 各領域の学習過程の再整理（小中高）

（例）

- 思考・判断・表現する過程で知識・技能を活用する力の定着を促すため、〔思考力、判断力、表現力等〕の学習過程を、理解（「聞くこと」と「読むこと」）と表現（「話すこと」と「書くこと」）などの視点から分かりやすく整理

● 発達段階に応じて扱う話や文章の種類の系統性の再整理（小中高）

（例）

- 系統的な指導による資質・能力の高まりや深まりを図るため、話や文章の種類を整理し、それぞれの種類に応じて話や文章を理解したり表現したりする資質・能力を、発達段階に応じて〔思考力、判断力、表現力等〕の事項として整理

● 各科目の内容等の再整理（必修科目、選択科目の再検討）（高）

（例）

- 高等学校の必修科目については、生徒が中学校までの学習との繋がりを意識して学べるように、左記の整理に基づき、各科目の学習内容や指導事項を整理
- 選択科目については、生徒の進路や学びたいことに合わせた幅広い科目選択を可能にするため、科目のあり方等を再整理



ワーキンググループにおける検討事項・論点③

(2) 学習内容に関する課題を踏まえた検討の方向性

①国語科として育成が求められる資質・能力のあり方

A. 人生を豊かにする語彙の獲得・読書習慣の形成

- 子供の言語経験（身近な大人との会話や読み聞かせなど）の多様化と教育格差との関連が指摘されている中、子供たちがより豊かな人生を実現するためには、語彙を豊かにし、自立した読書習慣を身につけることが重要

イ. 主体的な社会参画のためのコミュニケーション能力の育成

- 異なる価値観をもつ他者と建設的にやり取りするために、目的や場面、意図に応じて、自分の思いや考え、情報等を効果的に伝えたり、相手の思いや考え、情報等を的確に理解したりするとともに、合意形成に向けて話し合う力を育てることが重要

ウ. 社会生活の質を高めるための文章理解・活用能力の育成

- 情報社会では、目的に応じて文章の読み方を工夫し、内容を正しく理解した上で、評価・熟考し活用する力を育成することが重要

エ. デジタル・情報社会で氾濫する誤情報に対応できる能力の育成

- デジタル化の負の側面も顕在化する中、多様な情報や意見（生成AIによるものも含む）の中から、正確で信頼できるものや、根拠や論理の展開が妥当なものを見極める力を育成することが重要

オ. 我が国の伝統や文化が育んできた言語文化を継承・発展させる態度の育成

- グローバル化が進む中、我が国の言語文化に親しみ、愛情をもって享受し、その担い手として言語文化を継承・発展させる態度を育成することが重要

②左記の資質・能力を育成するための指導のあり方

A. 言葉で思考を整理したり深めたりすること

- 語彙を豊かにしたり、適切な語句を用いて思いや考えを表現したりすること（①A）に課題《語彙》（※参考資料3参照）

（例）

- 既知の語句（漢字を含む）と関連付けながら未知語の意味を理解して語彙を豊かにする学習や、紙やデジタルの辞書等を活用して類義語等の語感の違いを考えながら適した語句を選んで表現する学習の充実

- 読書により考えを広げたり深めたりする習慣の定着（①A）に課題《読書》（※参考資料7参照）

（例）

- 授業での読書から、授業外の時間も使って長期的に自らの興味・関心等に応じて様々な文章を読んで考えをもったり深めたりする自立的な読書への移行を促す系統的な学習の充実
- 読書の足跡をデジタル等で記録して振り返り、読書の意義や効用を実感する学習の充実

- 話や文章の内容と既有知識等を整理して結び付け、考えをまとめること（①イ・ウ）に課題《情報の扱い》（※参考資料3参照）

（例）

- 話や文章から取り出した情報や言語化した知識や経験等を、図表等を活用して構造的に整理し、情報同士の関係を明確にして考えをまとめたり深めたりする学習の充実



ワーキンググループにおける検討事項・論点④

イ. 目的や場面に応じたコミュニケーション

- 目的や場面に応じて適切に話したり聞いたりして考えをまとめること（①イ）に課題《話す・聞く》（※参考資料4-1 参照）

（例）

- 目的や場面に応じた話し方・聞き方を踏まえて、伝えたいことを明確にして構成や展開、表現の仕方などを工夫して話したり、論点を整理しながら話を聞いたりして考えをまとめる学習の充実

- 自分の思いや考えを適切に伝えられるように工夫して文章を書き、整えること（①イ）に課題《書く》

（※参考資料4-2 参照）

（例）

- 目的や意図に応じた文章の書き方を踏まえて、伝えたいことを明確にして構成や展開、表現の仕方などを工夫して書き、文章全体を整える学習の充実

ウ. 目的に応じた文章理解、情報の評価・熟考

- 目的に応じて文章を読み、自分の考えをもつこと（①ウ）に課題《読む》（※参考資料5-1 参照）

（例）

- 認知心理学等の知見も踏まえつつ、文章の意味理解のプロセスや目的に応じた読み方（必要な情報を得る、批判的に吟味する、文章世界に没入するなど）を踏まえて文章を読み深め、根拠に基づいて考えを表現する学習の充実

- 話や文章に含まれる情報の信頼性や情報同士の関係の妥当性を確かめること（①エ）に課題《情報の扱い》（※参考資料5-2 参照）

（例）

- 情報の事実関係や主張を裏付ける根拠の適切さなどについて、インターネット検索や学校図書館等を活用して複数の情報を参照しながら確認し、矛盾を見つけて対処する学習の充実

エ. 我が国の言語文化を継承・発展させる態度

- 我が国の言語文化の特質を理解し、その担い手として継承・発展させる態度（①オ）に課題《言語文化》（※参考資料6 参照）

（例）

- 小中学校での古典に親しむ学習から高等学校での古典への理解を深める学習への系統的な接続の改善
- 我が国の伝統的な文字文化を踏まえつつ、近年の文字文化の変化に応じる効果的な学習の充実

（3）その他

- デジタル学習基盤を支える文字入力への扱い

（例）

- 小学校低学年で学習の一部に、キーボードに触れてローマ字で入力してみることを取り入れることを通じた、国語科や他教科等で育む言語能力、情報活用能力の向上



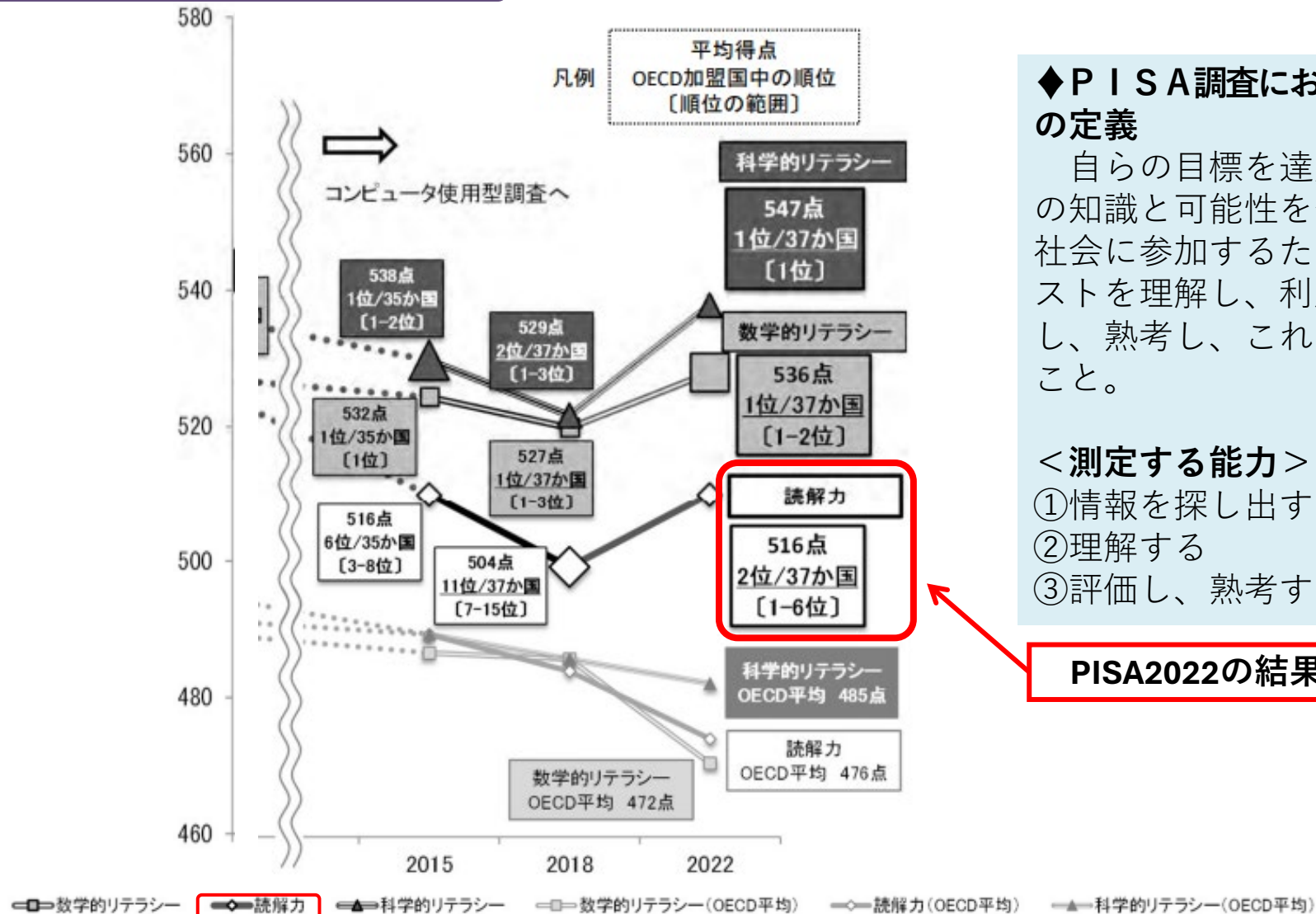
参考資料・データ

学力の状況

読解力の平均得点は、OECD加盟国中 2 位（PISA2022）

PISA2015以降の平均得点及び順位の推移

※PISA2015からコンピュータ使用型調査に移行



自由記述形式の問題では、「根拠を示して自分の考えを説明すること」に課題がある（PISA2018）

参考資料 1 - 2

日本の正答率

48.6%

【具体的な設問例】（公開問題「ラパヌイ島」問7）

三つの資料を読み、資料から根拠となる情報を挙げて、自分の考えを説明する問題。

PISA2018

自由記述形式の問題において、自分の考えを根拠を示して説明することに、引き続き課題がある。

誤答には、自分の考えを他者に伝わるように記述できず、問題文からの語句の引用のみで説明が不十分な解答となるなどの傾向が見られる。

※PISA2018は重点的に調査する分野が読解力であったため、読解力に関する詳細な分析を行っている。（PISA2022は重点的に調査する分野が数学的リテラシーであったため、読解力に関しては詳細な分析が行われていない。）

ブログ 書評 サイエンス ニュース

www.sciencenews.com/Polynesian_rats_Rapa_Nui

サイエンス ニュース

ラパヌイ島の森を破壊したのはナンヨウネズミか？

科学レポーター 木村 真

2005 年、ジャレド・ダイヤモンド氏の『文明崩壊』が出版されました。この本の中で、彼はラパヌイ島（別名イースター島）に人が定住した様子を描いています。

本書は出版と同時に大きな議論を呼びました。多くの科学者が、ラパヌイ島で起こったことについてのダイヤモンド氏の説に疑問を抱いたのです。科学者たちは、18 世紀にヨーロッパ人がその島に初めて上陸した時には巨木が消滅していた点については同意しましたが、消滅した原因についてのジャレド・ダイヤモンド氏の説には同意しなかったのです。

そして、二人の科学者カール・リボ氏とテリー・ハント氏による新しい説が発表されました。彼らはナンヨウネズミが木の種を食べたために、新しい木が育たなかったと考えています。そのネズミはラパヌイ島の最初の移住者である人間が上陸するために使ったカヌーに偶然乗っていたか、または、この島に意図的に連れてこられたのだと、彼らは述べています。

ネズミの数は、47 日間で二倍に増えるという研究結果があります。それほど数のネズミが育つには多くのエサが必要です。リボ氏とハント氏はこの説の根拠として、ヤシの実の残骸にネズミがかじった跡が残っている点を指摘しています。もちろん彼らも、ラパヌイ島の森の破壊に人間が加担したことは認めています。しかし、一連の経緯の元凶は主にナンヨウネズミの方にあったというのが、彼らの主張なのです。

経年変化分析調査でのスコアの低下

小学校

平均スコアの推移（小学校）



表1 スコアの標本統計量

実施年度	平成28年度	令和3年度	令和6年度
スコア平均	505.8	505.8	489.9
児童数	11,122	16,321	15,767
標準偏差	123.7	120.8	126.8

中学校

平均スコアの推移（中学校）

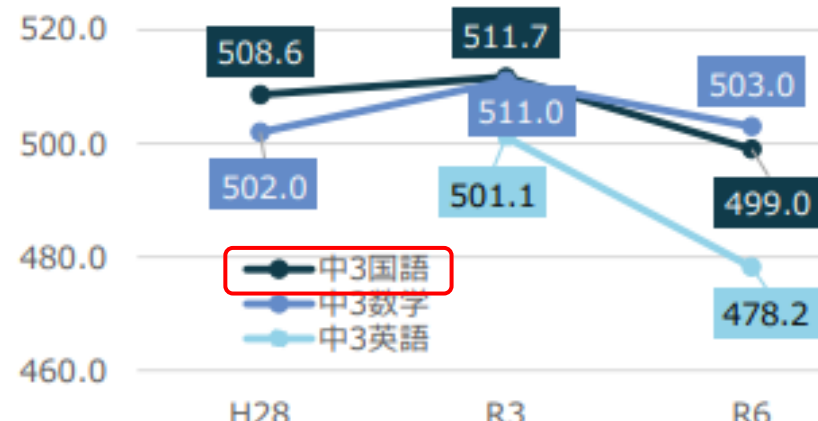


表1 スコアの標本統計量

実施年度	平成28年度	令和3年度	令和6年度
スコア平均	508.6	511.7	499.0
生徒数	27,029	25,206	23,457
標準偏差	128.0	121.3	122.8

※平成28年度、令和3年度、令和6年度（PBT実施校）の結果を比較。なお、全国の本調査のスコア分布の状況に関する変化の有無は中長期的に継続して分析する必要があり、次回（令和9年度予定）以降の結果もあわせて引き続き分析が必要。

学習内容に関する状況

言葉で思考を整理したり深めたりすることに課題

○語彙を豊かにしたり、適切な語句を用いて思いや考えを表現すること（①ア）

	概要	通過率・正答率		調査等
小	思考に関わる語句の理解		51.7%	R4状況調査
中	表現の効果を考えた描写		49.8%	R6学力調査

○話や文章の内容や既有的知識等を整理して結び付け、考えをまとめること（①イ、ウ）

	概要	通過率・正答率		調査等
小	情報の整理の仕方の理解・使用		59.0%	R4状況調査
			63.2%	R7学力調査
	文章の内容理解に基づく考えの形成		40.4%	R4状況調査
			56.4%	R5学力調査
中	文章の内容と既有知識を結び付けた考えの形成		32.5%	R5状況調査
高	文章の内容と背景・他作品との関係を踏まえた深い解釈		21.9%	R6状況調査

※各調査結果は、特に課題が見られたものを取り上げている。

※表中の「状況調査」は「学習指導要領実施状況調査」、「学力調査」は「全国学力・学習状況調査」を表す。学力調査は小学校6学年及び中学校3学年を対象、状況調査は小学校4学年及び6学年、中学校全学年、高等学校第3学年（必修科目で実施）を対象としている。なお、中学校及び高等学校の状況調査の結果は速報値であり確定値ではない。

※各種調査結果の通過率・正答率はそれぞれの実施年度、対象児童生徒、問題の内容、出題形式が異なるため、単純に比較することはできない。

※「通過率・正答率」は、「概要」に関する問題の平均通過率・平均正答率を表す。また、異なる調査で出題した問題でも趣旨が同じである場合には、「概要」を一つにまとめて表している。

目的や場面に応じたコミュニケーションに課題

○目的や場面に応じて適切に話したり聞いたりして考えをまとめること（①イ）

	概要	通過率・正答率		調査等
小	話の中心を捉えて考えを形成		57.5%	R4状況調査
	話合いの流れを踏まえた質問		52.4%	
	立場を明確にして話し合い、考えを形成		47.8%	R4学力調査
中	話し手の考えと比較して自分の考えを形成		41.6%	R5状況調査
	話の内容を評価		42.7%	
	話題や展開を捉え、互いの発言を結び付けて考えを形成		28.8%	R5状況調査
			45.1%	R6学力調査
高	話の論理の展開等を評価		41.1%	R6状況調査

※各調査結果は、特に課題が見られたものを取り上げている。

※表中の「状況調査」は「学習指導要領実施状況調査」、「学力調査」は「全国学力・学習状況調査」を表す。学力調査は小学校6学年及び中学校3学年を対象、状況調査は小学校4学年及び6学年、中学校全学年、高等学校第3学年（必修科目で実施）を対象としている。なお、中学校及び高等学校の状況調査の結果は速報値であり確定値ではない。

※各種調査結果の通過率・正答率はそれぞれの実施年度、対象児童生徒、問題の内容、出題形式が異なるため、単純に比較することはできない。

※「通過率・正答率」は、「概要」に関する問題の平均通過率・平均正答率を表す。また、異なる調査で出題した問題でも趣旨が同じである場合には、「概要」を一つにまとめて表している。 15

目的や場面に応じたコミュニケーションに課題

○自分の思いや考えを適切に伝えられるように工夫して文章を書き、整えること（①イ）

	概要	通過率・正答率		調査等
小	資料を活用した記述の工夫		57.0%	R4状況調査
	簡単な記述と詳細な記述の工夫		27.3%	
	理由・事例を明確にした記述の工夫		61.4%	R7学力調査
	根拠を明確にした記述の工夫		37.5%	R4状況調査
中	資料を適切に引用した記述の工夫		31.2%	R7学力調査
	叙述の仕方を確かめて推敲		38.6%	R5状況調査
	表現の効果を確かめて推敲		49.6%	
	表現の効果を確かめて推敲		40.8%	
	目的や意図に応じた表現かを確かめて推敲		26.7%	
高	話の構成や展開の工夫		37.9%	R6状況調査
	根拠の示し方等を工夫した記述		41.4%	
	文章の種類、構成、展開等を工夫した記述		45.4%	

※各調査結果は、特に課題が見られたものを取り上げている。

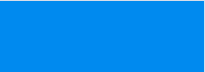
※表中の「状況調査」は「学習指導要領実施状況調査」、「学力調査」は「全国学力・学習状況調査」を表す。学力調査は小学校6学年及び中学校3学年を対象、状況調査は小学校4学年及び6学年、中学校全学年、高等学校第3学年（必修教科目で実施）を対象としている。なお、中学校及び高等学校の状況調査の結果は速報値であり確定値ではない。

※各種調査結果の通過率・正答率はそれぞれの実施年度、対象児童生徒、問題の内容、出題形式が異なるため、単純に比較することはできない。

※「通過率・正答率」は、「概要」に関する問題の平均通過率・平均正答率を表す。また、異なる調査で出題した問題でも趣旨が同じである場合には、「概要」を一つにまとめて表している。

目的に応じた文章理解、情報の評価・熟考に課題

○目的に応じて文章を読み、自分の考えをもつこと（①ウ）

	概要	通過率・正答率	調査等
小	目的に応じた必要な情報の取り出し	 38.7%	R4状況調査
中	目的に応じて必要な情報に着目して要約	 43.3%	R6学力調査
		 39.5%	R5状況調査
	目的に応じて複数の情報を整理して解釈	 39.3%	
	観点を明確にして文章の構成を考える	 32.7%	
	文章の構成や表現の仕方を評価	 23.6%	

※各調査結果は、特に課題が見られたものを取り上げている。

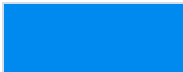
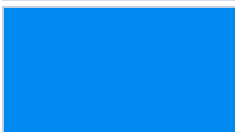
※表中の「状況調査」は「学習指導要領実施状況調査」、「学力調査」は「全国学力・学習状況調査」を表す。学力調査は小学校6学年及び中学校3学年を対象、状況調査は小学校4学年及び6学年、中学校全学年、高等学校第3学年（必修科目で実施）を対象としている。なお、中学校及び高等学校の状況調査の結果は速報値であり確定値ではない。

※各種調査結果の通過率・正答率はそれぞれの実施年度、対象児童生徒、問題の内容、出題形式が異なるため、単純に比較することはできない。

※「通過率・正答率」は、「概要」に関する問題の平均通過率・平均正答率を表す。また、異なる調査で出題した問題でも趣旨が同じである場合には、「概要」を一つにまとめて表している。

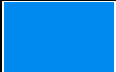
目的に応じた文章理解、情報の評価・熟考に課題

○話や文章に含まれる情報の信頼性や情報同士の関係の妥当性を確かめること（①工）

	概要	通過率・正答率	調査等
中	意見と根拠の関係の理解	 31.4%	R5状況調査
	情報の信頼性の確かめ方の理解・使用	 35.3%	
高	目的や意図に応じて情報の妥当性や信頼性を吟味	 45.1%	R6状況調査

PISA2018、2022

ある商品について、販売元の企業とオンライン雑誌という異なる立場から発信された複数の課題文を読んで答える問題のうち、次のような問題の正答率が低い。

概要	正答率		調査等
	日本	OECD	
必要な情報を探し出す	 56.1%	 59.2%	PISA2018
	 56.8%	非公表	PISA2022
双方の主張や情報の質と信ぴょう性を評価し対処を説明する	 8.9%	 27.0%	PISA2018
	 14.3%	非公表	PISA2022

※各調査結果は、特に課題が見られたものを取り上げている。

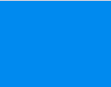
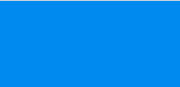
※表中の「状況調査」は「学習指導要領実施状況調査」を表す。学力調査は小学校6学年及び中学校3学年を対象、状況調査は小学校4学年及び6学年、中学校全学年、高等学校第3学年（必修科目で実施）を対象としている。なお、中学校及び高等学校の状況調査の結果は速報値であり確定値ではない。

※各種調査結果の通過率・正答率はそれぞれの実施年度、対象生徒、問題の内容、出題形式が異なるため、単純に比較することはできない。

※「通過率・正答率」は、「概要」に関する問題の平均通過率・平均正答率を表す。

我が国の言語文化を継承・発展させる態度の形成に課題

○我が国の言語文化の特質を理解し、その担い手として継承・発展させる態度（①才）

	概要	通過率・正答率		調査等
小	古典の言葉の響きやリズムに親しむ		56.8%	R4状況調査
中	古典の一節を引用して使用		40.6%	R5状況調査
高	時代背景等を踏まえた古典の解釈		21.9%	R6状況調査
	我が国の言語文化としての古典の理解		35.4%	

※各調査結果は、特に課題が見られたものを取り上げている。

※表中の「状況調査」は「学習指導要領実施状況調査」を表す。学力調査は小学校6学年及び中学校3学年を対象、状況調査は小学校4学年及び6学年、中学校全学年、高等学校第3学年（必修科目で実施）を対象としている。なお、中学校及び高等学校の状況調査の結果は速報値であり確定値ではない。

※各種調査結果の通過率・正答率はそれぞれの実施年度、対象生徒、問題の内容、出題形式が異なるため、単純に比較することはできない。

※「通過率・正答率」は、「概要」に関する問題の平均通過率・平均正答率を表す。

読書活動に関する状況

読書習慣の形成に課題

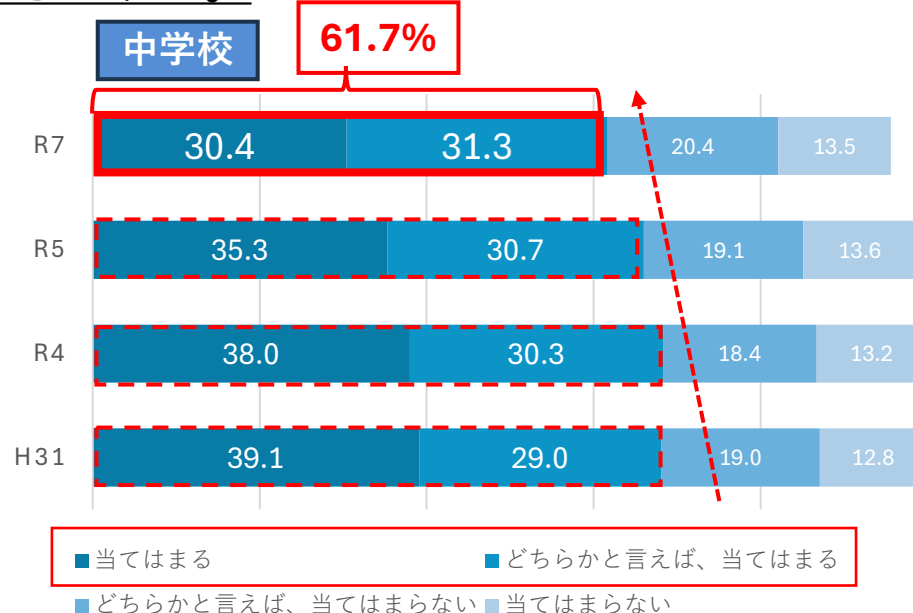
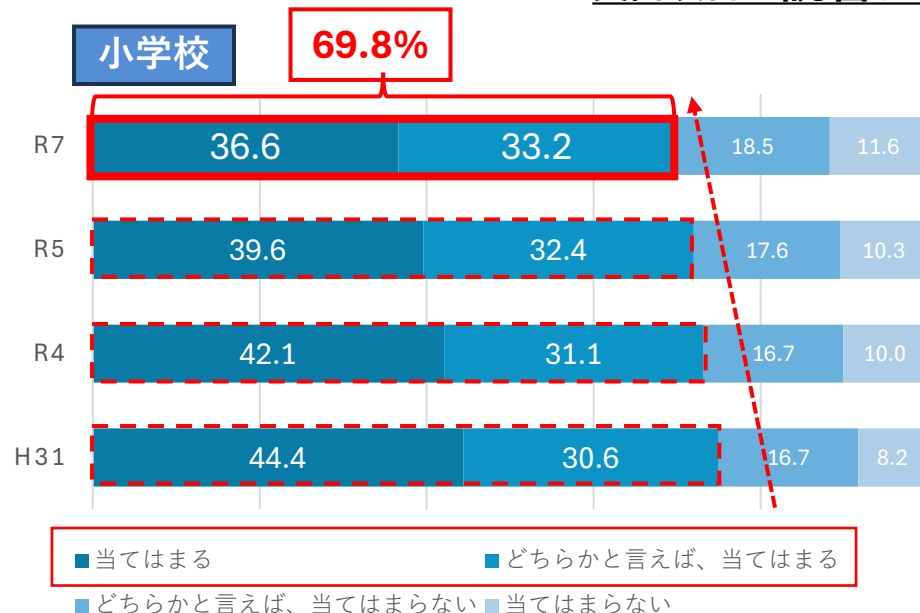
参考資料 7-1

○読書により考えを広げたり深めたりする習慣の定着（①ア）

	概要	通過率・正答率		調査等
中	読書の意義と効用の理解		39.8%	R5状況調査

読書が好きな児童生徒の割合が減少傾向

質問項目：読書は好きですか。



H31～R7の学力調査の質問調査の結果

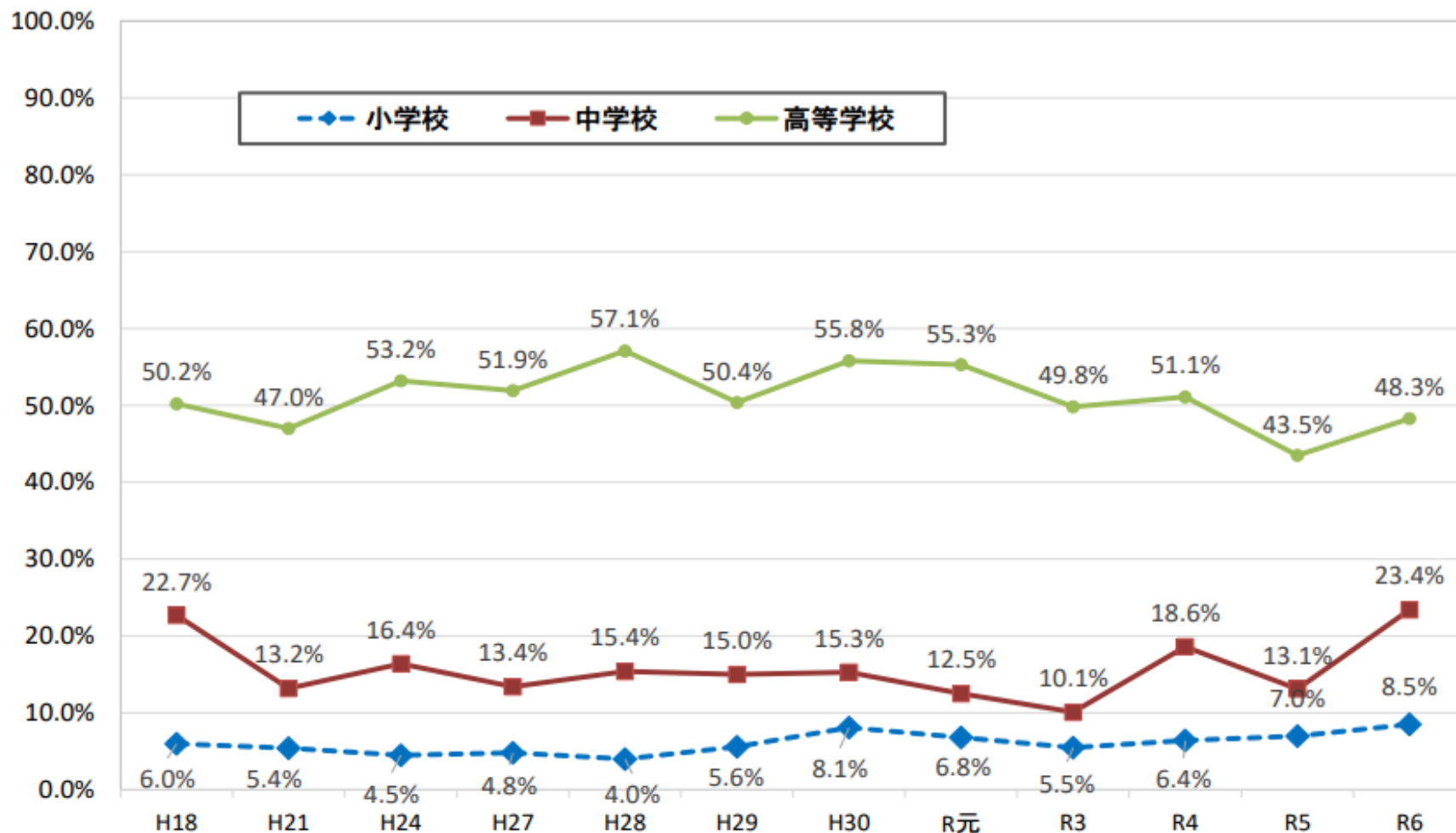
※R2～R3はこの項目について質問していない。

子供の不読率が上昇

参考資料 7-2

不読率（0冊回答者）の推移

※「不読率」：1か月に1冊も本を読まなかった者の割合



出典：第69回学校読書調査（公益社団法人全国学校図書館協議会・株式会社毎日新聞社）

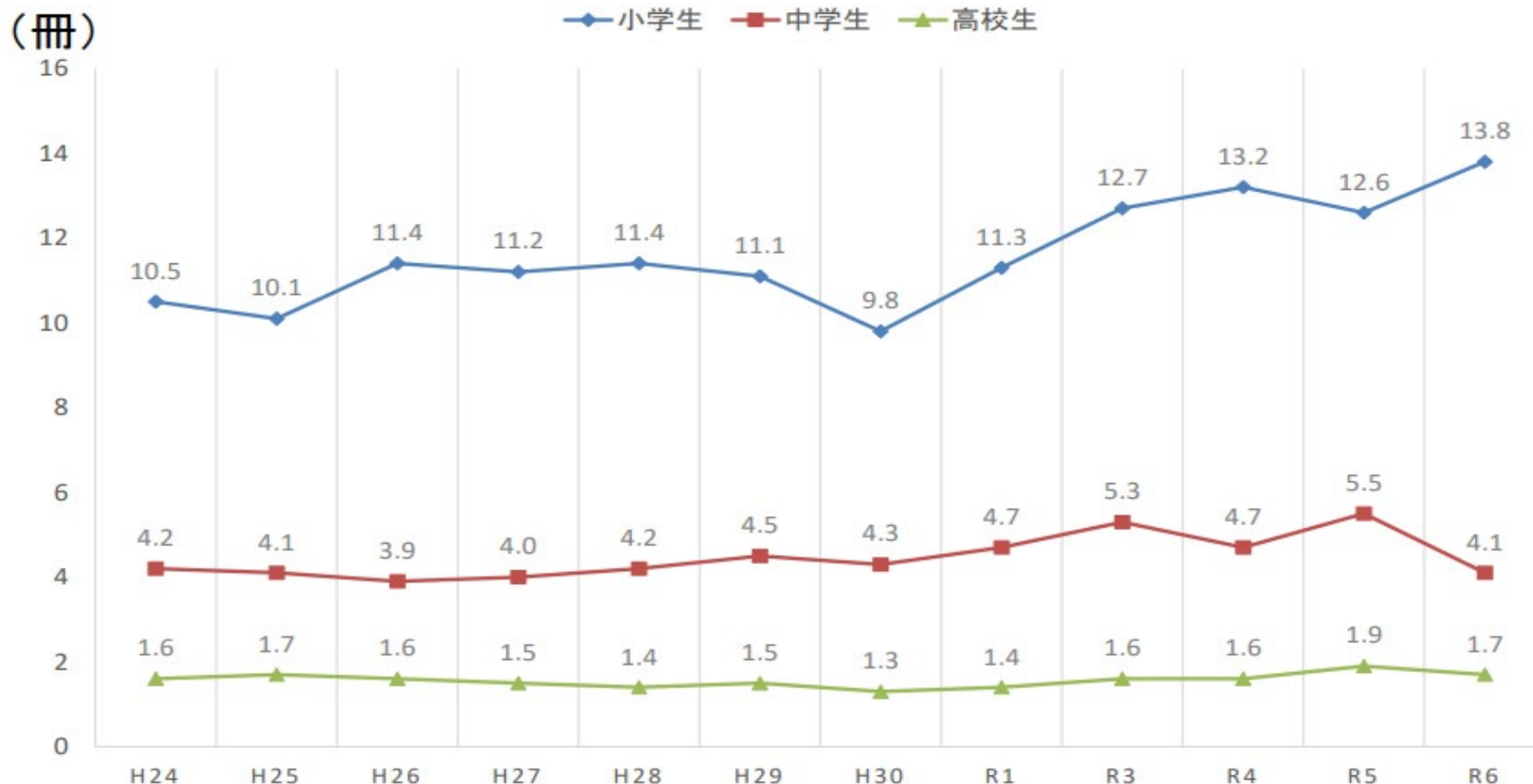
※令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、調査未実施

子供の読書習慣に格差が生じている可能性

※直近の12年間で、小は上昇傾向、中・高はほぼ横ばい。

一方、不読率は上昇していることから、子供の読書習慣に格差が生じている可能性が考えられる。

1人当たり読書冊数（冊／月）



出典：第69回学校読書調査（公益社団法人全国学校図書館協議会・株式会社毎日新聞社）

※令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、調査未実施

学習指導要領について

学習指導要領について

- 全国的に一定の教育水準を確保するとともに、実質的な教育の機会均等を保障するため、国が学校教育法に基づき定めている大綱的基準。
- 各学校段階ごとに、それぞれの教科等の目標や最低限教えるべき教育内容を定めている。時代の変化や社会や子供の実態等に対応し、これまで概ね10年に一度改訂が行われてきた。

※幼稚園については幼稚園教育要領、特別支援学校については、特別支援学校幼稚部教育要領、小学部・中学部学習指導要領及び高等部学習指導要領をそれぞれ定めている。

学習指導要領 前文

…教育課程を通して、これからの時代に求められる教育を実現していくためには、よりよい学校教育を通してよりよい社会を創るという理念を学校と社会とが共有し、それぞれの学校において、必要な学習内容をどのように学び、どのような資質・能力を身に付けられるようにするのかを教育課程において明確にしながら、社会との連携及び協働によりその実現を図っていくという、社会に開かれた教育課程の実現が重要となる。

学習指導要領とは、こうした理念の実現に向けて必要となる教育課程の基準を**大綱的に**定めるものである。…

教育課程編成の基本的な考え方

国

- ・ 学習指導要領など、学校が編成する教育課程の大綱的な基準を制定

教育委員会
(設置者)

- ・ 教育課程など学校の管理運営の基本的事項について規則を制定

学 校
(校長)

- ・ 教育課程を編成・実施

学習指導要領の法的な位置付け

教育基本法

- ・ 教育の目的及び目標、義務教育の目的、学校教育の基本的な性格などについて規定

学校教育法

学校教育法
施行規則
(文部科学省令)

- ・ 義務教育の目標、幼稚園、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校の目的及び目標について規定
- ・ 小学校等の教科構成、授業時数について規定
- ・ 各学校の教育課程は、教育課程の基準として文部科学大臣が公示する学習指導要領によることについて規定

学習指導要領
(文部科学省告示)

- ・ 教育課程の編成、教育課程の実施と学習評価、児童生徒の発達の支援、学校運営上の留意事項、各教科等の目標及び内容などについて規定
- ・ 学校種（幼稚園、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校）ごとに作成

学習指導要領の変遷

平成元年
改訂

社会の変化に自ら対応できる心豊かな人間の育成
(生活科の新設、道德教育の充実)

平成10～
11年改訂

基礎・基本を確実に身に付けさせ、自ら学び自ら考える力などの
[生きる力]の育成(教育内容の厳選、「総合的な学習の時間」の新設)

平成15年
一部改正

学習指導要領のねらいの一層の実現(例:学習指導要領に示していない内容を指導できることを明確化、個に応じた指導の例示に小学校の習熟度別指導や小・中学校の補充・発展学習を追加)

平成20～
21年改訂

「生きる力」の育成、基礎的・基本的な知識・技能の習得、思考力・判断力・表現力等の育成のバランス
(授業時数の増、指導内容の充実、小学校外国語活動の導入)

平成27年
一部改正

道德の「特別の教科」化 「答えが一つではない課題に子供たちが道徳的に向き合い、考え、議論する」道徳教育への転換

平成29～
30年改訂

「生きる力」の育成を目指し資質・能力を三つの柱で整理、社会に開かれた教育課程の実現

今次学習指導要領の改訂の経緯

- 現行の学習指導要領等については、平成28年12月に中央教育審議会から「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について（答申）」を受けて改訂。

答申		告 示	実 施	移行措置
平成28年12月21日 中央教育審議会	幼稚園	平成29年 3月31日	平成30年4月	平成30年4月～
	小学校		令和2年4月	
	中学校		令和3年4月	
	高等学校	平成30年 3月30日	令和4年度より 年次進行で実施	平成31年4月～
	特別支援学校 (幼稚園及び 小学部・中学部)	平成29年 4月28日	幼・小・中・高校に準じて実施	
	特別支援学校 (高等部)	平成31年 2月4日		

学習指導要領の全体構造

新しい時代に必要となる資質・能力の育成と、学習評価の充実

学びを人生や社会に生かそうとする
学びに向かう力・人間性等の涵養

生きて働く知識・技能の習得

未知の状況にも対応できる
思考力・判断力・表現力等の育成

何ができるようになるか

よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を共有し、
社会と連携・協働しながら、未来の創り手となるために必要な資質・能力を育む
「社会に開かれた教育課程」の実現

各学校における「カリキュラム・マネジメント」の実現

何を学ぶか

新しい時代に必要となる資質・能力を踏まえた
教科・科目等の新設や目標・内容の見直し

小学校の外国語教育の教科化、高校の新科目「公共」の
新設など

各教科等で育む資質・能力を明確化し、目標や内容を構造的
に示す

どのように学ぶか

主体的・対話的で深い学び（「アクティブ・
ラーニング」）の視点からの学習過程の改善

生きて働く知識・技能の習
得など、新しい時代に求
められる資質・能力を育成
知識の量を削減せず、質
の高い理解を図るための
学習過程の質的改善

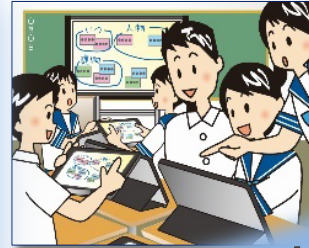
主体的な学び
対話的な学び
深い学び

主体的・対話的で深い学びの実現 （「アクティブ・ラーニング」の視点からの授業改善）について（イメージ）

「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善を行うことで、学校教育における質の高い学びを実現し、学習内容を深く理解し、資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的（アクティブ）に学び続けるようにすること

【主体的な学び】の視点

学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「**主体的な学び**」が実現できているか。



主体的な学び
対話的な学び
深い学び

学びを人生や社会に
生かそうとする
**学びに向かう力・
人間性等の涵養**

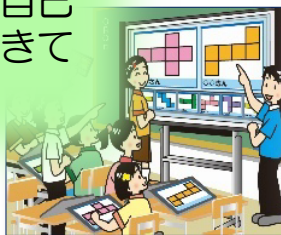
生きて働く
**知識・技能の
習得**

未知の状況にも
対応できる
**思考力・判断力・表現力
等の育成**



【対話的な学び】の視点

子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める「**対話的な学び**」が実現できているか。



【深い学び】の視点

習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう「**深い学び**」が実現できているか。

学習指導要領の構成 ー小学校の例ー

第1章 総 則

第2章 各 教 科

- 第1節 国 語
- 第2節 社 会
- 第3節 算 数
- 第4節 理 科
- 第5節 生 活
- 第6節 音 楽
- 第7節 図画工作
- 第8節 家 庭
- 第9節 体 育
- 第10節 外 国 語

第3章 特別の教科 道 徳

第4章 外 国 語 活 動

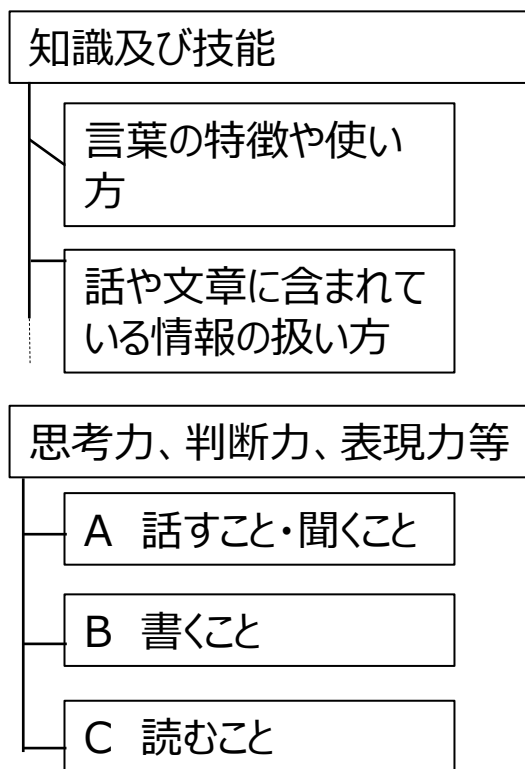
第5章 総合的な学習の時間

第6章 特 別 活 動

<現行学習指導要領の内容の構造のイメージ例>

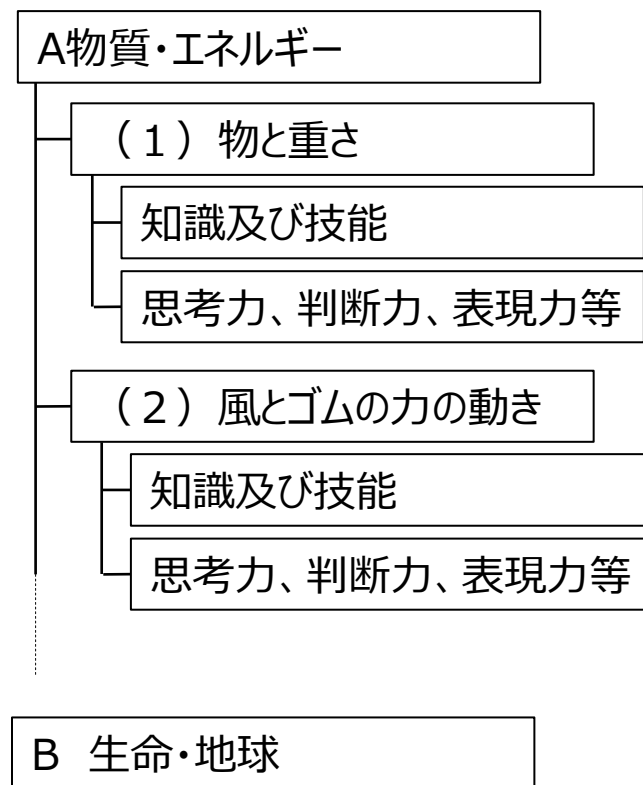
国語（小学校）

※内容を資質・能力ごとに整理



理科（小学校）

※内容を一定のまとまりごとに資質・能力で整理



国語科について

	目標	内容の構成
高等学校	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。 (2) 生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を伸ばす。 (3) 言葉のもつ価値への認識を深めるとともに、言語感覚を磨き、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、生涯にわたり国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。	〔知識及び技能〕 〔(1) 言葉の特徴や使い方に 関する事項〕 〔(2) 情報の扱い方に関する事項〕 〔(3) 我が国の言語文化に関する 事項〕 と 〔思考力、判断力、表現力等〕 〔A 話すこと・聞くこと〕 〔B 書くこと〕 〔C 読むこと〕
中学校	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。 (2) 社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。 (3) 言葉がもつ価値を認識するとともに、言語感覚を豊かにし、我が国の言語文化に関わり、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。	
小学校	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 日常生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。 (2) 日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。 (3) 言葉がもつよさを認識するとともに、言語感覚を養い、国語の大切さを自覚し、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。	

【目標の構成の改善】

- 資質・能力を3つの柱に整理するとともに、領域ごとに示していた目標を「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の資質・能力の3つの柱で整理

【内容構成の改善】

- 「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の3領域及び〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕で構成していた内容を、〔知識及び技能〕及び〔思考力、判断力、表現力等〕に再構成

【学習内容の改善・充実】

〔語彙指導の改善・充実〕

- 各学年において、語句への理解を深める指導事項を系統化し、語彙の量と質の充実

〔情報の扱い方に関する指導の改善・充実〕

- 「情報の扱い方に関する事項」を新設し、「情報と情報との関係」と「情報の整理」の二つの系統に整理

〔学習過程の明確化、「考えの形成」の重視、探究的な学びの重視〕

- 思考力、判断力、表現力等の各領域において、学習過程を一層明確化、各指導事項を位置付け
- 全ての領域において、自分の考えを形成する学習過程を重視し、指導事項に位置付け
- 探究的な学びの要素を含む指導事項を、全ての選択科目に位置付け（高）

〔我が国の言語文化に関する指導の改善・充実〕

- 「伝統的な言語文化」、「言葉の由来や変化」、「書写」、「読書」に関する指導事項を「我が国の言語文化に関する事項」として整理し、小学校低学年の新しい内容として指導事項を追加

〔漢字指導の改善・充実〕

- 都道府県名に用いる漢字20字を小学校第4学年の漢字配当表に追加。小学校4～6年生の配当漢字及び字数を変更

〔「話すこと・聞くこと」及び「書くこと」に関する指導の改善・充実〕

- 共通必修教科目の〔思考力、判断力、表現力等〕における「話すこと・聞くこと」、「書くこと」の領域に関する指導の配当時数を増加（高）

【学習の系統性の重視】

- 〔知識及び技能〕の指導事項及び〔思考力、判断力、表現力等〕の指導事項と言語活動例のそれぞれに、重点を置くべき指導内容を明確にし系統化

【言語活動の創意工夫】

- 従前に示していた言語活動例を言語活動の種類ごとに整理

【読書指導の改善・充実】

- 〔知識及び技能〕に「読書」に関する指導事項を位置付け、「読むこと」の領域で、学校図書館などを利用して、情報を得て活用する言語活動例を明示

【各領域の授業時数、取り上げる教材の明確化】（高）

- 複数の領域をもつ全科目について授業時数を設定するとともに、主として「読むこと」の指導で取り上げる教材について、科目の性格に応じて、より明確に設定

【高等学校の科目構成の改善（旧→現行）】

○ 中教審答申で示された高等学校の国語科の課題（※）を踏まえ、共有必修履修科目として「現代の国語」、「言語文化」を、選択科目として「論理国語」、「文学国語」、「国語表現」、「古典探究」をそれぞれ新設。 （※） ・話し合いや論述などの「話すこと・聞くこと」、「書くこと」の領域の学習が十分に行われていない。 ・古典の学習について、日本人として大切にしてきた言語文化を積極的に享受して社会や自分との関わりの中でそれらを生かしていくという視点が弱く、学習意欲が高まらない。 【平成28年12月21日「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」より】	平成21年告示学習指導要領	平成30年告示学習指導要領
	【共通必修履修科目】 国語総合（4）	【共通必修履修科目】 現代の国語（2） 言語文化（2）
	【選択科目】 国語表現（3） 現代文A（2） 現代文B（4） 古典A（2） 古典B（4）	【選択科目】 論理国語（4） 文学国語（4） 国語表現（4） 古典探究（4） （ ）：標準単位数

学習指導要領	小・中・高等学校国語科の内容の構成	高等学校国語の科目 (◎:必履修、○:選択必履修)
昭和33～35年改訂 (告示)	A (聞くこと、話すこと)、(読むこと)、(書くこと) B ことばに関する事項	◎現代国語 ○古典甲 ○古典乙Ⅰ 古典乙Ⅱ
昭和43～45年改訂 (告示)	A 聞くこと、話すこと B 読むこと C 書くこと (D ことばに関する事項(中))	◎現代国語 ◎古典Ⅰ甲 古典Ⅰ乙 古典Ⅱ
昭和52～53年改訂 (告示)	A 表現 B 理解 〔言語事項〕 〔言語事項〕 A 表現 B 理解 (小))	◎国語Ⅰ 国語Ⅱ 国語表現 現代文 古典
平成元年改訂 (告示)	A 表現 B 理解 〔言語事項〕	◎国語Ⅰ 国語Ⅱ 国語表現 現代文 現代語 古典Ⅰ 古典Ⅱ 古典講読
平成10～11年改訂 (告示)	A 話すこと・聞くこと B 書くこと C 読むこと 〔言語事項〕	○国語表現Ⅰ 国語表現Ⅱ ○国語総合 現代文 古典 古典講読
平成20～21年改訂 (告示)	A 話すこと・聞くこと B 書くこと C 読むこと 〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕	◎国語総合 国語表現 現代文A 現代文B 古典A 古典B
平成29～30年改訂 (告示)	〔知識及び技能〕 (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項 (2) 情報の扱い方に関する事項 (3) 我が国の言語文化に関する事項 〔思考力、判断力、表現力等〕 A 話すこと・聞くこと B 書くこと C 読むこと	◎現代の国語 ◎言語文化 論理国語 文学国語 国語表現 古典探究